

第 37 回生命の起原および進化学会  
学術講演会に参加して  
埼玉大学院 理工学研究科  
修士 1 年 熊地重文  
s11mp211@mail.saitama-u.ac.jp

2012 年の三月に行われた、生命の起原および進化学会に参加させていただきました。普段、生命の起源という分野について私たちが行っている研究分野以外の発表を聞く機会は少ないため、他の研究者がどのようなアプローチで生命の起源と進化という大きな謎を解明しようとしているのかが非常に参考になりました。

私は RNA が初めに誕生し、そこから生命が生まれたという「RNA ワールド仮説」を基準に考えて、そこから遺伝暗号、タンパク質が誕生しうるのに興味があり、主にペプチドに関する研究を行っています。本学術講演会では「4 種類のアミノ酸 (GADV) からなる原始タンパク質の機能」ということで、GADV の 4 種類からなるペプチドが tRNA と相互作用しうることを発表させていただきました。

しかし、今回の講演会ではペプチドができるまでといった私が暗黙のうちに可能と思っていたことやガラクタ分子による生命の誕生の説や「GADV 仮説」、宇宙環境での生物の生存に関する研究など様々な興味深い講演を拝聴することができました。「原子ペプチド生成に果たす足場 RNA の役割(一般公演 15)」ではリボソームの起源に関する可能性を考えることができ非常に興味深かったです。また、「生命の起源に関する GADV 仮説(特別講演 SL-2)」に関しまして、私は自分の研究の関係で「GADV 仮説」について調べてはいたのですが、本学術講演会で実際に発表を拝聴することでこの考え方について理解を深めることができました。

生命の起源と進化は様々な論点から考えることのできる分野だと思います。そこでこのような様々な分野の方が参加し、互いに研究を発表、意見交換していくことが重要だと思います。このような貴重な機会を持つ学会に所属させていただくことができ非常にうれしく思います。

第 37 回生命の起原および進化学会  
学術講演会に参加して  
東京薬科大学大学院 生命科学研究科  
修士 1 年 古川龍太郎  
s077089@toyaku.ac.jp

今回初めて、生命の起原および進化学会に参加させていただきました。3 月初旬の開催ということで、4 年生や修士 2 年生の卒論と修論発表に混ざって発表練習をしてきました。私自身、就職活動を行いながらの発表準備は体力的に厳しい状況でしたが、自分の研究をまとめるいい機会になったと感じています。今回の会場は大阪薬科大学ということで、大変校舎がきれいな大学でした。ここで発表するのかと思った時は既に緊張していたように思います。

私が発表したのは 2 日目の午前中で、今回が初めての口頭発表でした。私の発表は「 $\alpha 2$  型グリ

シル tRNA 合成酵素を用いた全生物の分子系統解析」というテーマでした。真正細菌、古細菌、真核生物が持つグリシル tRNA 合成酵素のアミノ酸配列を用いて分子系統解析を行ったところ、真核生物が古細菌の内群になり、古細菌であるメタン菌と最も近縁になったという結果を報告しました。本番の緊張からか想定していた時間よりも短い発表になってしまいましたが、たくさんの御意見、御質問をいただき、大変よい経験をさせていただきました。想定外の質問もあり、自分の知識不足を痛感すると同時に、さらなる知識探求意欲が大きく湧きました。

学会では D-アミノ酸に関する研究や、宇宙に関する研究が多く、生命の起源研究のフィールドは際限がないと感じました。普段は分子生物学の分野の発表ばかり聞いている身としては大変難しいながらも新鮮な話題が多く、生命の起源のアプローチの仕方はどこにでもあるのだということがわかりました。また、昨年大きな話題となった「はやぶさ探査機が持ち帰った小惑星粒子の分析」に関する特別講演はその分析結果と考察に大変驚きました。シンポジウム 1 では日本酒に含まれる D-アミノ酸についての研究を大変興味深く聞かせていただきました。

懇親会では、他大の大学院生や先生方とお話させていただきました。気さくな先生が非常に多く、アットホームな学会であることがわかりました。学生よりも先生の方が多き気がして、そんな学会も珍しいのではないかと思います。楽しい中にも真面目に情報交換が成されていて、すごく有意義な場であると感じました。研究についても、励みになるお言葉をいただき、この学会に参加してよかったと思いました。

今回の学会発表に先立ち、自分の研究とはどのようなものか考えることができました。また、学会後もどのように研究に臨んでいけばいいか考えさせられました。それは、学会に参加されていた先生方が溢れんばかりの好奇心を持って研究に臨んでいるように感じたからです。今後も生命の起源と初期進化にチャレンジしていけることをうれしく思います。

最後になりましたが、学会発表の機会をいただき、またご指導いただき、心から感謝申し上げます。